

り、略中、頼能は博雅三位の墓を知て、ときく参向して拜しける、まことによく數寄たるゆえなり。

〔甲陽軍鑑品第四十〕一此次に高坂彈正申さる、四國牢人に村上源丞と申者は、堺の紹鷗が難談をき、たるとして、我等にかたる、數奇者と茶湯者は別なり、茶湯者と申は、手前よく茶たて、料理よくして、いかにも鹽梅よく、茶湯座敷にて、振舞する人を申、扱又數奇者と申は、振舞に一汁一菜なりとも仕り、茶は雲脚にても、心の奇麗なるを數奇者と名付てよび候、元來數奇は禪僧から出たるわざにて、如件諸宗は佛語、禪宗は佛心として、廬地を肝要にして、まことおほき心指を執行人のたつる茶を、數奇者の振舞と、村上源丞がかたるときんば、數奇者と茶湯者は各別と聞候よし、高坂彈正がかたる也。

〔茶人大系譜〕珠光、俗姓村田、南都稱名寺僧也、年二十五、來寓止于洛陽三條街、性敏而茶事故實、

將軍義政公嘗召光問茶禮、茶道稱宗工、

●真能、稱阿彌、號鷗齋、又春鷗齋、仕足利家、為同朋、能茶禮、善書畫、能識鑿古器焉、按、真能仕足利家、為同朋、事蓋普廣院、義教將軍之時也、又造茶杓、有名、是宗師造茶杓之初歟、

真藝、為同朋、能茶事、及書畫、不墜於家聲、

真相、和歌、又逢香道、倍從公左右、每從事宴會之席、又嘗為茶具之主役、能識鑿古器、及書畫、人皆焉服、

空海、俗名左近、不詳其姓、受茶法於真能、而傳其法於荒木道陳、

北向道陳、本姓荒木、沙界、舩松、人居北向家、故以北向為氏、嗜茶道、受其法於空海、傳、宗、易、鷗、沒後、五十八、年、

利久、始就紹鷗、窮其蘊、

義政公、位足利、尊氏、八代、孫、征夷、大將軍、從一位、左大臣、准三后、號天山、文明十一年、公年四十五、讓、